

A-117 福山市における栄養摂取状況等に関する意識と実態 (第8報)

一食生活意識のタイプ別による分析一

福山市立女短大

鈴木雅子

奥山清美

加納三千子

津川淳

三谷璋子

○倉田美恵

土屋房江

目的 福山市における主婦の食生活における安全性の意識が社会意識や健康状態等と、どのような関連性をもつかについて検討を加えた。

方法 福山市の主婦3000名を調査対象とし、質問紙法により実施し有効回収率89.5%を得た。調査期間、集計、計算の方法は前報のとおりである。食生活の安全性に対する意識を次の④栄養重視・食品添加物否定型、⑤栄養重視・食品添加物肯定型、⑥経済重視・食品添加物肯定型⑦経済重視・食品添加物否定型の4タイプに分類し分析を行なった。

結果 1). 食生活の安全性への認識は、④⑥タイプが⑤⑦タイプよりも高かったが、実態では④と⑥タイプに差がみられた。

2). 健康状態における全身的症状においては、⑥タイプの有訴率が高かった。

3). ④⑤タイプ、⑥⑦タイプを特徴づける生活基盤の背景としては、職業、学歴、収入があった。④⑥タイプは自営、ホワイトカラー、高卒以上の学歴、16万以上という特徴があった。

4). ④⑥タイプ、⑤⑦タイプを特徴づけるものとしては、家族形態、就労形態などであった。すなわち、④⑥タイプは、世代家族、主婦の完全就労が多くみられた。